

# れきはく NEWS

vol.41  
2017.SEP

島根県立古代出雲歴史博物館の  
旬な話題や情報をお届けします

Shimane Museum of Ancient Izumo



## CONTENTS

- 2 島根の仏像 —平安時代のほとけ・人・祈り—
- 4 展覧会通信
- 5 れきはく通信
- 6 学芸員通信
- 7 古代文化センター通信
- 8 秋の一日をれきはくで楽しもう!  
maru café人気メニュー/ショップインフォメーション

特別展

# 島根の 仏像

平安時代の  
ほとけ・人・祈り



薬師如来坐像 松江市・佛谷寺〔重要文化財〕



四天王立像（持国天） 出雲市・萬福寺〔重要文化財〕



特別展

# 島根の仏像

— 平安時代のほとけ・人・祈り —

**会期** 平成29年10月20日(金)～12月4日(月) [45日間]

◎開館時間／9:00～18:00 ※11月1日(水)以降は9:00～17:00

◎会期中の休館日／11月21日(火)

**会場** 島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

「神々の国」という言葉で紹介されることが多い島根ですが、実は、仏像が数多く伝わっている土地でもあります。なかでも特に個性的で独特の魅力を持つのが、平安時代の仏像です。

「仏像」は、「人」が「ほとけ」へ「祈り」を捧げる、その営みのなかで造られます。したがって島根に魅力的な仏像が数多く伝わっていることは、かつてこの地に、「ほとけ」と「人」をめぐる豊かな営みがあったことを意味します。それはいったいどのようなもので、仏像の姿にどのように表れているのでしょうか。

この展覧会では、島根に伝わる平安時代の仏像の魅力を改めてご紹介するとともに、仏像の意味にも迫りたいと考えています。



## 島根の代表的な平安仏が集合

島根の仏像の文化財的価値は早くも明治・大正時代から注目され、多くの平安時代の仏像が重要文化財に指定されています。本展ではその半数以上をご紹介する予定です。

【重要文化財】  
薬師如来坐像【松江市／佛谷寺】



【重要文化財】  
四天王立像(持国天)【出雲市／萬福寺】





## 限られた機会にしか拝観できない 「秘仏」を特別公開

「秘仏」とは、信仰上の理由などにより普段は拝観が許されない仏像のこと。1年や数年に1度、公開される場合もありますが、その機会は多いとはいえません。今回、所蔵者のご厚意により、こうした秘仏も当館で特別公開させていただきます。この機会に是非ご観覧ください。



聖観音菩薩坐像 [雲南市/峯寺]



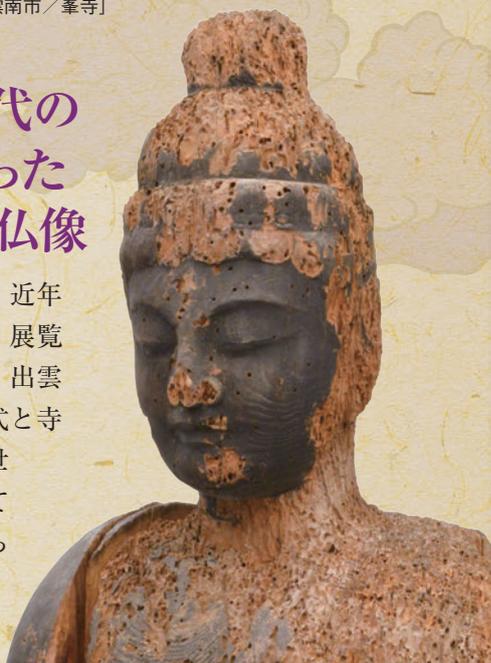
〔県指定文化財〕聖観音菩薩立像  
[海士町/清水寺]



## 新たに平安時代の 仏像だとわかった 寺外初公開の仏像

本展覧会のための事前調査などにより、近年新たに平安時代の作だと判明した仏像を、展覧会で寺外初公開します。なかでも注目は、出雲市・高野寺の聖観音菩薩立像。造形の様式と寺院の歴史を照合すると平安時代初期、9世紀前半の仏像と考えられ、現在確認されている中では出雲地方最古の木彫仏像とみられます。

聖観音菩薩立像 [出雲市/高野寺]



こちらもおすすめ!

## 特別展関連行事

### ①記念講演会

古代歴史文化賞受賞記念

### 平安時代のほとけを 造った人びと

定員100名  
参加費無料

- 日時  
平成29年10月21日(土)  
13:30~15:00
- 会場  
古代出雲歴史博物館  
講義室
- 講師  
根立 研介氏  
京都大学大学院教授  
第4回古代歴史文化賞優秀作品賞受賞者  
著書『ほとけを造った人びと』

### ②関連講座

### 島根県の仏像を 考える

—平安時代を中心に

定員100名  
参加費無料

- 日時  
平成29年11月12日(日)  
13:30~15:00
- 会場  
古代出雲歴史博物館  
講義室
- 講師  
的野 克之  
島根県立古代出雲歴史博物館 学芸部長

記念講演会・関連講座に  
参加をご希望の方は、  
下記の方法でお申込ください。

- お申し込み方法  
電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームのいずれかで事前にお申し込みください。
- お申し込み先  
古代出雲歴史博物館  
TEL.0853-53-8600  
FAX.0853-53-5350  
<http://www.izm.ed.jp>

### ギャラリートーク

- 日時  
平成29年11月19日(日)  
12月3日(日)  
各回13:30~14:30
- 会場  
古代出雲歴史博物館  
特別展示室
- 講師  
古代出雲歴史博物館学芸員

参加には年間パスポートか特別  
展覧券が必要です。

常設展期間限定展示

# 出雲の神楽をささえる

— 林木屋神楽資料 —

◎開催期間

平成29年12月22日(金)～平成30年1月28日(日)  
《37日間》

■会期中の休館日／1月16日(火)

◎会場

島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室



林木屋神楽面（個人蔵）

出雲市内には、見々久神楽（島根県指定無形民俗文化財）、乙立神楽（出雲市指定無形民俗文化財）、神西神楽（出雲市指定無形民俗文化財）など多くの神楽団体による神楽が伝えられています。これらの神楽団体は、かつて面や衣裳、神楽道具などを専門の貸出屋から借りて神楽を舞っていました。この貸出屋の1つに出雲市大津町の屋号「林木屋」があります。林木屋は現当主の高祖父にあたる勝部豊市氏（天保3年〈1832〉頃～明治30年〈1897〉）が面打ちを行い、それ以後、面や衣裳などの貸出業を昭和50年代後半頃まで行っていました。昭和30年代には少なくとも出雲市の11神楽団体に貸し出していたなど、林木屋神楽資料は出雲市の神楽の伝承を側面から支えていたといえるでしょう。

この度、林木屋神楽資料（神楽面236点・衣裳309点など）のほとんどが一括して当館に寄託されました。これを記念して、神楽面を中心に林木屋神楽資料の全貌を紹介しながら、出雲市に伝わる神楽の伝承に触れます。

展示構成

【1】林木屋の神楽面

神楽面は、およそ40面ごと「鶴」「稀」「稀極」「稀飛」などに分類され、保管・貸出されていました。ここでは「鶴」に分類された神楽面をはじめ約130点の神楽面を一挙に展示します。

【2】林木屋神楽資料の広がり

神楽資料は旧出雲市内をはじめ、大田市東部、旧平田市、旧佐田町、旧斐川町などの神楽団体に貸し出されていました。この関係から出雲市内の神楽団体にも林木屋神楽資料が残されています。ここでは、見々久神楽の神楽面を中心に、林木屋神楽資料が出雲市内の神楽を支えた様子を紹介します。

【3】演じられる演目

出雲市内の神楽は、佐陀神能の影響を受けながらも、七座を含め佐陀神能にはない内容や演目を伝えています。神楽面・神楽道具を展示しながら、出雲市内の神楽で舞われる代表的な演目を紹介します。

【トピック】勝部豊市の面

勝部豊市氏は、口を開くと眼が閉じるといった鬼面の仕掛けを考案したと伝えられています。このような豊市氏制作の神楽面の特徴と変化を紹介します。

【4】幻の演目

神楽面の多くには、それが用いられる演目が墨書されています。これから現在では舞われていない演目や、現状では幕末明治の神楽台本などには記載のない演目を確認することができます。これらいわば幻の演目を紹介しながら、かつての神楽の演目を可能な限り復元します。



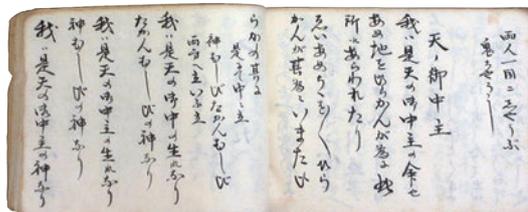
〔出雲市指定有形民俗文化財〕彦晴（明治12年1879・個人蔵）



〔出雲市指定有形民俗文化財〕山の神（個人蔵）



天御中主（個人蔵）翁



神能集（大正3年(1914)写・個人蔵）

## 常設展ミニ企画

てせん  
手銭家資料と大社の芸能

◎期間／平成29年9月20日(水)～10月16日(月)

神迎いの道の傍らにある大土地神社は、氏子によって受け継がれている大土地神楽が有名で、毎年行われる秋の例祭では、夜神楽が上演されます。

江戸時代を通じて造り酒屋を営んでいた手銭家はこの大土地神社に隣接しており、氏子として神社を支えてきました。手銭家には、大土地神社と神楽に関する文書や、五代当主・官三郎が寛政十年(1798)に献納し、実際に使われていた、二面の神楽面、「山の神」「すさのを」が保管されています。

また、能楽の謡本や、囃子の太鼓手付け本(楽譜)、許状(免状)、浄瑠璃本、鼓の胴、太鼓など、神楽以外にも様々な芸能に関わる資料が伝わっています。

今回、歴博常設展示室の一面をお借りして、手銭家に伝来する芸能関係資料を展示します。

これらの資料からは、手銭家代々の当主らが、おおくの同好の士と共に様々な芸能を楽しみ、熱心に取り組んでいた様子が、うかがえます。

大社の地にしっかりと根付き、繁っていた文化の豊かさの一部でも、知っていただく機会になれば幸いです。



神楽面「すさのを」(江戸時代)

■公益財団法人 手銭記念館

## 歴博入門講座

いまさら聞けない  
島根の歴史連続4回  
シリーズ

島根の歴史、本当は興味あるけど…、「むずかしい話は苦手だな」「いまさら初歩的なことを聞くのも恥ずかしい」と思っている方を対象にした入門講座です。学芸員が簡潔かついねいに、島根の歴史を解説します。4回連続受講された方には修了証と記念品を贈呈します。



■場 所／古代出雲歴史博物館 講義室

■定 員／80名

■申込方法／電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申込みください。

●10:30／開講式  
●10:40～11:40  
第1回 11.18(土) いまさら聞けない出雲大社の歴史  
専門学芸員：岡 宏三

「いまさら聞けない」とは、図書館や書店に行って本を見たり買ったりしても、載っていないくらい基本的なこと、のようです。ですから、このシリーズでは、観光雑誌や一般向けに編集されたハウ・ツー本などの間違いはビシビシ指摘したりしますが、専門的なお話はいたしません。日ごろから歴史に関心があって、本を読んでいるような方ではなく、今まで歴史に全く関心はなかったけれど、最近興味がわいてきたような方を対象としています。

なお近年は、「大人向けの中学校や高校の歴史の教科書」が書店で幾種類も販売されているのを見かけるようになりました。よくまとまっていますし、2,30年以上前に教科書で習った内容とは随分違います。歴史に興味をもたれた方は、まずこうした本を読みましょう。『まんが日本の歴史』など、子供向けの本もバカにできません。歴史の魅力に迫るには、こういったものから入ってゆくほうが実は便利、かつ近道なのです。

●10:30～11:30  
第2回 12.17(日) 『出雲国風土記』って聞いたことありますか  
主任学芸員：吉永 壮志

●10:30～11:30  
第3回 1.21(日) “たたら”って知っていますか  
交流・普及課長：角田 徳幸

●10:30～11:30  
第4回 2.17(土) 石見銀山の見方教えます  
専門学芸員：矢野健太郎  
●11:40／閉講式

※過去に受講された方はご遠慮ください。  
※各講座のタイトルは、予告なく変更する場合があります。

常設展の  
展示品から

## 歴史を歩いた 下駄の秘密

古代出雲歴史博物館  
学芸員 岡 宏三



石見銀山から出土した下駄



奈良時代の下駄

右の写真は約1,300年前、奈良時代の下駄。左の写真はおよそ400年前、石見銀山から出土した江戸時代はじめの下駄。一見、何のヘンテツもない下駄ですが、よくみると色々なことに気がつきます。

1つは、いずれも角ばっていないこと。石見銀山の下駄は女物のようにみえますが、これも男物です。角ばった下駄は、江戸時代に入り、しばらくして出現したようです。

もう1つは、鼻緒の穴の位置。現在の下駄の多くは足の指を挟める鼻緒の穴の位置が上部中央にあり

ますが、奈良時代の下駄では親指側に寄っています。つまり古代の鼻緒の穴はサンダルと同じ位置にあったものが、中世を経て今のような位置へと移動したのです。

これは展示の解説では触れていませんし、私が下駄の展示を担当した訳でもありません。展示を見回っている時に気がついたのです。解説が全てではありません。じっくり観察していると、学芸員も気付かなかった発見に出会えることが時々あるのです。

**博** 博物館の裏側、教えちゃいます!

## 電球の取り替えて どうやってるの?

当館の中央ロビーに入ったら見上げてみてください。天井の高さは約6メートル。そこに取り付けられた照明の電球が切れたら、どうやって取り替えるのでしょうか?

実は当館の学芸員の多くは、技能講習を修了して「高所作業車」を操作する資格を持っています。つまり、天井の電球は、高所作業車を操作して、自分達で交換しているのです。

高所作業車による作業は、当然のことながらお客様がいない時に行わなければなりません。ちなみに当館の休館日は、現在のところ原則毎月第3火曜日のみです。月に一度の休館日には、展示替えや文化

財の点検をはじめ様々なメンテナンスを集中して行いますが、照明が切れた場合は基本的にその日の閉館後（冬期は5時以降、夏季は6時以降）に行っています。

作業はヘルメットと安全帯（ベルト）を着用して行いますが、夕方から夜にわたる作業のため、集中力が途切れないように細心の注意を払っています。



島根県古代文化センター刊行物のご案内

古代祭祀と地域社会

(島根県古代文化センター研究論集 第16集)

島根県古代文化センターが平成24～26年にかけて取り組んできたテーマ研究「古代王権と祭祀に関する比較研究」の研究論集です。

この論集では古墳時代～奈良平安時代にかけての特徴的な出雲の祭祀や神社が、どのように形成されてきたのか、全国的な研究動向とあわせて総合的に検討しました。『出雲国風土記』にみえる官社について、神話の大国主神の眷属神百八十神を神社として表現したのではないかとの仮説を提示しています。



収録論文

- 三宅和朗 「日本古代の神々と声」
- 有富純也 「古代神社の展開過程」
- 吉松大志 「『出雲国風土記』の地名起源説話と古代の地域社会」
- 坂江 渉 「古代播磨の地域社会構造と倭王権の地域支配」
- 松尾充晶 「古代神社の立地環境と構造」
- 浅川滋男ほか 「出雲青木遺跡の「原始大社造」に関わる復元的考察」
- 平石 充 「青木遺跡 古代神社復元模型の制作」
- 笹生 衛 「祭祀遺跡から見た古代の出雲」
- 平石 充 「古代出雲の神社」

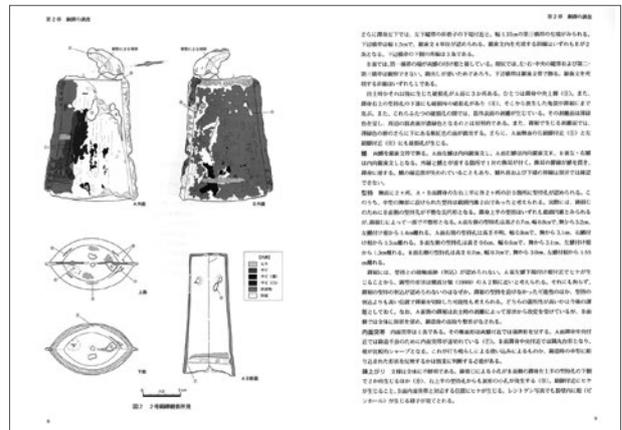
2016年3月刊行／A4版 197頁／定価1,000円

志谷奥遺跡出土青銅器群の研究

(島根県古代文化センター調査研究報告書54)

昭和48年に松江市鹿島町志谷奥遺跡で出土した銅剣6本、銅鐸2口について、平成22～23年におこなわれた観察や銅鐸の再実測、また蛍光X線分析・鉛同位体比分析の結果を掲載した研究報告書です。

2017年3月刊行／A4版 55頁／定価1,000円



しまねの古代文化 第24号

平成28年度に実施した、県内外での講座・シンポジウムのうち、「古代国家はいかにして成立したかー出雲と蝦夷・東国ー」(基調講演:鈴木靖民・パネラー:瀬川拓郎・若狭徹・平石充)、「後醍醐天皇の隠岐配流と日本海流通」(講師:目次謙一)、「喜阿弥焼の周辺ー民窯と民芸運動」(講師:村上勇)を収録しています。

2017年3月刊行／B6版 123頁／定価1,000円



# 秋の一日をれきはくで楽しもう!

10.8  
①

〈れきはく秋の体験学〉

## れきはく秋まつり

時間 10:00~15:00

場所 古代出雲歴史博物館  
風土記の庭

※内容は変更になる場合があります。

出雲農林高校・古代出雲歴史博物館 連携事業

### \*出雲農林高校がやってくる!

「移動動物園」「出農ショップ」がオープン!  
「出農太鼓」のパフォーマンスもあるよ!

### \*勾玉づくり体験

### \*れきはくマルシェ Maru Café

maruカレーや各種コッペパンなどをご用意しています!

加茂岩倉銅鐸 発見記念日イベント

### \*蠟で銅鐸の鑄造再現実験

### \*キッズわくわく体験コーナー

工作やスタンプラリーなど、わくわくがいっぱい!



大きな栗の  
甘露煮入り!  
手作りにこだわった

### ぜんざいセット〈700円〉

maru caféの人気メニューに、出西焼しほっさいやきの器に盛り付けた“ぜんざいセット”があります。ぜんざいは、毎日コトコトと丁寧に煮込んだ小豆に、大社の鶴鷺地区産の藻塩で味を整えた、手作りにこだわっています。

お餅は柔らかな焼き目餅を使っており、香ばしい味わいが好評です。大きな栗の甘露煮も入っていて、これからの季節におすすめの一品です。

甘さ控えめで、素材の味を生かした仕上がりになっております。ぜひ一度、お試しください。

※出西焼の窯元は出雲市斐川町にあります。



### SHOP INFORMATION

## 皆様との良縁がありますように...

歴博ショップは、エントランス西側の1号店と、中央ロビー内(要観覧料)の2号店があります。主な取扱商品として、歴博オリジナルグッズ(クリアファイル・バッグ・マグカップ等)・書籍(図録)・めもの・勾玉・銀製品・地元特産品・伝統工芸品等々を皆様が思っている以上に!?取り揃えております。スタッフ一同、ご来店を心よりお待ちしております。



オススメ① 出雲國風土記  
(2ケ×15個包装)  
1,080円  
1号店のみ販売

書物の風土記をイメージした外装が特徴的な“出雲國風土記”。鳥根ブランドに認定されている出西生姜を使用したお餅風の和生菓子は、出西みどり生姜本来の天然の色合いで高級感溢れる風味です。銘菓類では当店1番人気商品です。

オススメ②  
1・2号店で販売

古代出雲歴史博物館  
開館10周年記念  
復刻版  
オリジナル  
手拭い  
〈白地〉648円  
〈紺地〉864円  
※2種類あります(価格はお異なります)



開館当初、歴博に保管されている出雲藍板締めいずもあいのいたの版木の図柄より、とくさウサギの図柄を選んで作成した、“オリジナル手拭い”。当時大人気の為、即完売後絶版となっていたのですが、歴博開館10周年を記念してこの度、復刻いたしました。大きさは35cm×80cm、素材は綿100%と使いやすくなっています。白地に藍色に染めたものと、紺地に白く染めたものと2種類あります。

※表示価格は消費税込みです。

発行/平成29年9月



島根県立古代出雲歴史博物館  
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350  
URL: <http://www.izm.ed.jp> E-mail: [contact@izm.ed.jp](mailto:contact@izm.ed.jp)  
開館時間 9:00~18:00(11月~2月は、9:00~17:00)



マスコットキャラクター  
雲太くん



マスコットキャラクター  
出雲ちゃん